2024年度 学校法人 三幸学園 大宮こども専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 丸山 政孝

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- ・チーム担任制を設け、生徒一人ひとりを多角的に支援する等指導の多様化を図り退学率低減に取り組んだ。
- ・就職求人票管理のDX化を行い、業務効率化・学生へのリアルタイムの情報共有を強化した。
- ・実習指導の見直しを行い、学内で統一した指導が行えるよう教員間の情報共有・整理を行った。
- ・将来の入学者となる高校生の進路選択が広がるよう高校と専門学校を繋ぐ連携を積極的に取り入れた。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・教育理念「技能と心の調和」や人材育成像「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」など、入学時のスタートアッププログラムで重点的に話をしており、教育理念の浸透は図れている。また働くうえで必要な 12 項目として SANKO ワークコンピテンス(主体性・共感力・状況把握力・発信力・協働力・リーダーシップ・課題対応力・社会人としてのマナー・好感の持てる人柄・業界に必要な専門知識や技術・粘り強さ・創造力)が設定されているものの、継続的に伝える機会は無いため、進級生にも改めて教育理念や人材育成像を共有する必要がある。

② 今後の改善方策

・保護者連絡ツールを活用した保護者向けの情報発信を増やす。
 ・SANKO ワークコンピテンス(12 項目)のうち、更に重点項目3つ(協働力・社会人としてのマナー・好感の持てる人柄)に絞り、継続した指導で理解浸透を図る。

③ 特記事項

特になし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・新人事制度の導入により適正な評価を行う仕組みの整備と処遇反映までのプロセス等が明確になったものの、職員間での理解の差が生じている。
- ・地域社会の倫理や信頼に配慮した上で活動しているものの、学生個々の社会人としてのマナーについては成長の余地があるためさらなる指導が求められる。

② 今後の改善方策

- ・人事制度の「理解」「納得」「実践」の3段階を意識し、組織全体で継続的なフォローアップを行う。
- ・保育現場での実例や卒業生の声をホームルームや各授業で在校生に伝え、自身の行動を振り返る機会を設ける。

③ 特記事項

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員 の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・入学者の支持を維持、増加させるために入学者市場の分析、在校生の質向上を図るための保育現場ニーズの把握を行った上でカリキュラムの見直しを行う必要がある。

② 今後の改善方策

・2026年度4月より新しい登校スタイルを設置予定。

（保育科保育士コースの午前通学スタイル導入により、通学しやすさに加えて職業教育にかける時間を増やす）

③ 特記事項

特になし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・チーム担任制のメリットも多くある一方で、起こりうる弊害に対する対応策の検討。
- ・実習中止、延期者を減少させる仕組みの醸成。
- ・就職後のミスマッチをなくし、早期退職者を減少させるための教育の見直し。

② 今後の改善方策

- ・教務力向上を目的に、学園共通の研修動画の視聴やスクールカウンセラーによる研修を実施する。
- ・実習サポート室の運営をスタートし、実習不安の軽減や能力向上を目指す。
- ・保育現場職員、卒業生による授業内講話の実施を行うことで、保育現場への理解を深める。

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・個々の学生に合わせた適切な生活、学習環境の整備。
- ・卒業生の現場での活躍や現状の把握方法の再検討。

② 今後の改善方策

- ・ハイフレックス授業の導入に伴い、登校もしくは自宅でのオンライン授業受講を選択できるようにする。
- ・実習巡回等に限らず、園訪問や地域自治体の連絡会議等に積極的に参加し情報収集を行う。

③ 特記事項

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・外部ボランティア活動数は増えているものの、参加する学生に偏りが生じている。
- ・学外での職業教育を実践できる時間確保のための学事日程の見直し。

② 今後の改善方策

- ・ボランティア活動先・種類の新規開拓を行う。
- ・授業、実習スケジュールの組み立てを工夫し、長期休暇等を利用してボランティア活動に取り組める環境づくりを行う。

③ 特記事項

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・入学志願者の減少。
- ・保育士養成課程の競合他校との差別化。

② 今後の改善方法

- ・姉妹校含めた各高校との連携強化。
- ・インナーブランディングを再度行い、入学希望者・保護者への魅力発信を強化。
- ・保護者向け支援情報の提供。（学費・奨学金・資格・就職実績・保育現場の働きやすさ等）

③ 特記事項

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・地域貢献における連携活動の新規開拓。
- ・学内活動の認知拡大。

② 今後の改善方策

- ・保育園だけでなく、保育関連企業との連携を強化。
- ・既存の託児利用やイベント参加者による、口コミの拡散やSNS等での取り組み発信を検討。

③ 特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・様々な学生に合わせた教育には課題も多くあると思うが、SANKO ワークコンピテンスの項目にもあった通り、まずは保育者・社会人として必要とされる人間性をしっかり学び、学生のうちにたくさん失敗をして、現場に出る仕組みを引き続き検討いただけると良いのではないか。そのための実習・ボランティア等の受け入れについては十分に整えていくので、相互に連携しながら保育者を育てていけると良いのではないか。(栗田委員)

・高校と専門学校の連携や専門学校同士の連携、学園内の保育園との連携等、全国での事例も参考にしながらよりよい教育体制の整備ができると特徴・魅力のある学校になるのではないか。学園のスケールメリットをどのように活かしていけるかで学生の選択肢が変わるため、入学後の学びを通じて就職後の出口をしっかり見据えることが重要である。(島田委員)

・現場経験豊富な講師が揃っているという学校の強みを生かして、より現場のリアルな様子や必要とされることを授業で学ぶことができると良いのではないか。リアルな話は学生の興味を引き、学ぶ意欲が向上するため教科書の内容を越えた保育現場に沿った学びを学生が受けられることに期待したい。(川瀬委員)